

関連単元名	大地のつくり	展示コーナー	B	地球の成り立ち
		資料名	栃窪層産植物化石 原町市地形模型	



▲プテロフィルム（シダ類）



▲ザミテス（ソテツ類）



▲ニルソニア（ソテツ類）

栃窪層

原町市・鹿島町・相馬市にかけて、双葉断層の東側に南北細長く広がるジュラ紀中期～白亜紀最前紀の“相馬中村層群（栃窪層・中ノ沢層・富沢層・小山田層など）”のうち、ジュラ紀後期（約1億5000万年前）の陸成層。

栃窪層からは、当時のシダ類・ソテツ類・球果類の化石が多産し、平成8年（1996）には鹿島町の栃窪層で小型肉食恐竜の足跡化石が発見されている。

ジュラ紀

約2億8000万年前に始まり、1億4500万年に終わる中生代2番目の時代。この時代の名前は、スイスとフランスの国境に分布するジュラ山脈に由来している。

陸上には多様な種類の大型恐竜が進化・繁栄し、小型の恐竜から鳥類の祖先である始祖鳥が分化した。気候は温暖で、シダ類・ソテツ類・針葉樹などの豊かな森林が広がっていた。海では魚竜・首長竜などの爬虫類の他、特にアンモナイトが繁栄していた。



原町市地形模型

原町市の地層

原町市の阿武隈高地東縁部には、南北に双葉断層（いわき市久之浜から宮城県岩沼市にかけて通る断層）があり、その断層を境とする西側の阿武隈高地には、おもに花崗岩や“相馬古生層（真野層・立石層・上野層・大芦層など）”といわれる古生代の地層が分布し、その東側の丘陵地・低地帯には、中生代と新生代の地層が分布している。